

福島第二原子力発電所における原子力防災訓練（緊急時演習）の実施について【概要】

【参考資料】
平成25年12月6日
東京電力株式会社

福島第二原子力発電所では、平成25年12月3・4日に、「平成25年度 福島第二原子力発電所 原子力防災訓練（緊急時演習）」を実施しました。この訓練は、原子力事業者防災業務計画ならびに原子炉施設保安規定に基づき、原子力災害発生時に事態の収束・復旧に向けて、的確な対応ができるか確認するため、現場での実践訓練を含めて年1回実施するものです。今回より、米国の危機管理機関も採用している現場指揮に関するマネジメントシステム（ICS[※]）の考え方を導入し、従来の緊急時対策本部の体制を見直して訓練を実施しました（参加人数：2日間で延べ約710名）。

※ ICS（Incident Command System）：米国（消防、警察、軍など）の災害現場・事故現場などにおける標準化された現場指揮に関するマネジメントシステム

【訓練のシナリオ】 以下の過酷な条件を想定

福島第二の全プラント（1～4号機）は冷温停止中[※]のところ、

- ・福島県沖で震度6強の地震が発生し、外部電源が喪失。
- ・その後、地震による津波の襲来を受けて、「交流電源を供給するすべての設備の機能」、「海水を使用して原子炉施設を冷却するすべての設備の機能」、および「使用済燃料プールを冷却するすべての設備の機能」が喪失。

※ 2、4号機は全燃料を原子炉から使用済燃料プールへ取り出し済み

- 【訓練項目】**
- 緊急呼び出し応答訓練
 - 避難誘導訓練
 - 緊急時対策本部立ち上げ訓練
 - 原子炉・使用済燃料プールへの注水訓練
 - 電源車による電源確保訓練
 - 通報訓練
 - 緊急被ばく医療訓練
 - モニタリング訓練
 - ガウ撤去等訓練 等

主な訓練の実施内容

◎緊急時対策本部立ち上げ訓練

緊急時対策室へ本部を立ち上げ、事故対応に対する指揮命令ならびに事故状況や復旧状況に関する情報収集等を行う訓練



緊急時対策本部の様子①



緊急時対策本部の様子②

◎ガウ撤去等に向けた訓練

津波により道路上に散乱したコンクリート片等（ガウ）の障害物を重機で撤去するためのルート確認等を行う訓練



現場へ向かう重機



現場（原子炉建屋周辺）でのルート確認

◎原子炉・使用済燃料プールへの注水のための訓練

消防車を使用し、原子炉や使用済燃料プールへ淡水の注入を行うための訓練



原子炉建屋への送水準備



原子炉建屋送水口への消防ホース接続

◎電源車による電源確保に向けた訓練

全交流電源喪失時に、原子炉・使用済燃料プールへの注水や除熱機能を維持するため、電源車を利用して必要な電源を供給するための訓練



電源車からのケーブル引き出し（2号機）



ケーブル接続箱へのつなぎ込み（2号機）